

秘

機密公第五七〇號

昭和二年九月十四日

外務大臣男爵田中義一殿

奉露協定ノ公表方ニ關スル件

本件ニ關シ本月三日附條三機密合第八〇五號ヲ以テ御申越ノ趣敬承  
當地東三省交渉總署ニ付取調ヘシメタル處該協定ハ露支兩國直接關  
係ヲ有スル各機關ニハ已ニ夫々通知セルモ一般的ニハ未タ公表セシ  
事實無之尙本件英文テキストハ機密扱ニシテ外部ニ發表セサル趣ナ  
リ  
右回報ス

在奉天 總領事 吉田茂

外務省

露文  
(赤紙)

S 120016 0746

053

歐米局

公信第一九九號

昭和二年十月五日

在長沙

領事 糟谷 廉二

外務大臣男爵 田中 義一 殿

支那側ヨリ長沙駐在露領事離湘方要求ノ件

唐生智ハ露領在留民ナキ當地ニ同領事ノ駐在スルハ共產黨ノ機關タ  
ルコト明カナルニ由リ同領事ニ離湘方ヲ要求セントノ意露ヲ有スル次  
第六往電第 四七 號中ニ報告致置キタル處當地ニ派員ハ本月三日長  
沙駐在露國領事「メン」(L.I.PEN)ニ對シ左記譯文通り公文ヲ以  
テ湖南ヨリ撤退方ヲ要求シタリ  
以書翰致啓上候陳者近頃瀏陽、醴陵及省城附近ニ於テ土匪事件發生

502.17112

在長沙領事館

S 120016 0747

054

亞細亞局

昭和二年拾月廿日 接受日 用紙

露文

田中

程 長沙 領事 糟谷 廉二

(已読用紙)

シタルニ因リ省政府ハ本月一日第八十次省務會議ニ於テ特ニ本省在留ノ外人及各國領事ノ安全ニ關スル議案提出セラレ討論ノ結果貴領事ニ暫時離湘ヲ請ヒ以テ萬全ヲ策リ度旨全体ノ決議ヲ經タリ英米領事モ亦地方不安ナルヲ以テ暫ク來湘セサル次第ニシテ貴領事ノ此行ハ實ニ政府保護ノ責任ヲ輕減スルモノニ有之候此段照會得貴意候

敬具

省政府ハ露國領事ニ對シ皮肉ニモ最近逐次報告ノ省城ニ於ケル共產黨員ノ陰謀粵漢株萍兩鐵道破壞賀龍ノ共產軍其他ノ敗殘部隊カ醜態瀏陽等湘東方面ヲ擾亂シタル事件ノ發生ヲ理由トシ保護ノ萬全ヲ期スル爲メ暫時湖南ヨリ退去アリ度シト要求シタルモノナル處唐生智カ共產黨撲滅ヲ標榜スル今日露國領事ハ此儘駐在不可能ナルヲ以テ早晚退去ノ外ナカル可キカ同領事ガ昨年四月來長開館準備中當時自家ノ地位維持上吳佩孚ノ意ヲ迎ヘ其開館ヲ阻止シ同領事ヲシテ漢口ニ引揚ノ餘儀ナキニ至ラシメ七月北伐軍當地ニ進出以來當地地方ニ共產黨ノ勢力旺盛トナリ十月再度入湘ノ同領事ニ對シ省黨部省政府初メ各團體ハアラ

在長沙領事館

S 120016 0748

055

(已読用紙)

ユル便宜ヲ計リ觀迎ニ日モ足ラサル有様ニテ盛ンニ露支親善振ヲ發揮シ同領事モ得意ニ見受ケラレタリ(大正十五年十一月五日)兩公信第一二四一號御參照然ルニ本年六月唐生智カ共產黨反對ヲ決意シ其取締漸次嚴重ヲ加フルニ及ヒ最早同領事ヲ願ミルモノナキノミナラス途ニ同領事ハ又々退去ヲ要求セラルルニ至リタル次第ナリ

本信寫送兩先

在文公使

在漢口

上海

廣東各總領事

S 120016 0749

056

在長沙領事館

亞細亞局

外高松第一〇八二號

昭和二年九月十九日發

昭和二年九月十五日

西米夏

長崎

佐上

長崎縣知事 佐上 信一

露支

早

057

内務大臣 鈴木嘉三郎 殿  
 外務大臣 田中義一 殿  
 陸軍大臣 白川義則 殿  
 指定方府縣長官 殿  
 雪澤安部西事務官 殿  
 安田 原 殿

支那國民革命軍司令部將校一行來佐件

本件官員之昨十三日以本縣及通藝里等一行中

611.10212

陳百嘉 蔣秋平、彭晋雲、張訂頌、本日

見民革命軍所屬將校、露心觀

午前六時出陣、長崎丸にて歸還せんが露方視察小  
員三對、大要左記、如キ註記ヲ存ス

記

一、要願

一行、入露當時ノ狀況ヲ急遽返國スルニ果シテ事一  
由、入露ノ目的

二、莫斯科、兵備其他軍隊ノ狀況

三、政治上ノ実績ハモスニ敵ニ似シタルモ工人農民ノ向上  
發展ヲ策セルモ政治徹底セザル莫斯科在露露人ノ狀況

四、共産主義ハ支那ノ國情ニ不適当ニシテ反共黨ニ實行  
シタル後密ニ漢合作ハ容易ニ行ハル可シ

五、蔣介石ノ再歸ハ彼が其獨裁行動ヲ急進シザルニ不能  
ナル也

右及東(通)報修也

S 120016 0751

S 120016 0750

記

唐生智得軍ノ選抜激遣通使子生トシテ入露ノ可ク  
命セラレタル余等一行十七名ハ本年四月下旬漢口上  
海浦迄至由六月上旬莫斯科科ト到着シ滯一露  
僅ニ二月余ニシテ帰ル途ニ就テハ入露者時ハ陸  
軍干係者及市政府要人等熱誠ナル款待ヲ  
受ケ軍事委員會議派莫斯科駐在司令少將  
某(姓ヲ知ラズトシテ)ト敷次面接シ同少將特別好  
意ヲ示シ在莫斯科科陸軍大學ニ留學ヲ許可セラレ  
軍事上ノ研究ヲナセリ又市政府委員首席バハ  
リンヲ初メ三四要人ニモ會見シタルハ吾人ノ入露目的ハ  
政治經濟軍事等一般實状ヲ視察スルト共ニ其主  
義ノ長短ヲ正確ニ研究スルヲ根本目的トシ彼國ノ事

S 120016 0752

055

命長計ノ可取リ吾國民革命ノ完成ヲ資トスヘク  
會員身別ヲナシ研究努力ヲ為シタルハ彼等ノ計  
謂共産主義ノ我ニ依ル政經軍事ノ實状ハ其主  
義ト致スル計ノ數ク予借題題ノ矣アリ到底吾等  
三民主義ト相容ルニモ非ズ吾國階級ヲ推シテ害アリ  
益ナク何事ヲ為スハキモ益ク夫事ニ入露ノ目的ヲ重  
切ナリ制一吾人同志ガ命ニ共産主義ニ我ニ共鳴セカ  
ルヲ聞込ミタル接待員ハ吾等ヲ覆入カ知リ不親切ニ  
一表シタル頗ル面白カラサルアリ故ニ是以上滯一却スルヲ欲セ  
サリシニ國內寧漢合作北伐繼續ノ重要時期ニ際會  
セル情報ニ接シタルヲ以テ急遽歸一國ヲ思立タル次第  
ナリ

S 120016 0753

三、今由滯露期間短カリシモ視察タル計トモバ莫斯科科

二八前記如リ軍事委員会派遣司令少将P...  
 同市ヲ中心ニ極東ヲ指揮シマ、アルが其実兵隊等ハ秘案  
 ナルハ全国ヲ通ジテ常備軍五十一カヲ下ラサルベク莫斯  
 科既ハ六十カ五カニ過キサル可シ目下夏期ニテ天候  
 生活ヲ爲シ訓練ヲナシマ、アルが軍規訓練等ハ問題  
 トスニ足ス、吾國國民革命軍ニ及ハサルテ是クニ三年  
 ノ至義務兵役ヲ旅行シ義務至過ト共ニ再後スルコトヲ得  
 義務期間ハ一月一ルルノ支給アリ、再後者ハ四ルル  
 ナリ因ニ特種部隊ノ俸給ヲ調査スルニ團長ニ  
 二五、留師長一九〇、留旅團長六、留百六十、留  
 長百四十、留大隊長八〇、留中佐一三〇、留中隊  
 長七〇、留中尉六〇、留少尉五五、留一級一  
 少額ナリ相違ノ生活ヲ得ルコトアリ

S 129016 0754

三 政治方面ニ於テハ後考ノ如ク中央委員会制定ニ依ルンガ  
 レトシテ中央委員會ト莫斯科中央委員會  
 而派相抗ス年中ナリ目下レニ派首席トロツ  
 キーハ猶行爲多ク各聲部ニ隔ケモスニウ派首席  
 アハリン等ノ指メニ配座セラル、至リタルヲ次テ前記  
 ンレノコトヲ考メ、主事時期トイフ、彼等ハ其聲  
 主義ニ則リ階級争闘ハ在る爲階級ノ保護ヲ主眼  
 トシテ、主眼ニ基調名工人農民ノ向上發展ヲ計リ  
 マ、アルが國内工業繁栄タルモスニウニ於テハ比較的工人ハ  
 利便ヲ供與セシオ、反シ農民ハ一九一八年より一九二〇  
 年迄ハ政策不徹底ノ爲メ金山灰ノ苦ヲ嘗ク、ソノカ  
 及至年々新ノ経済政策ノ樹立ニ莫旋ト共ニ改善ヲレ  
 彼等ノ獲得物タル農産物ハ改善セリ、収奪者人

S 129016 0755

シ其利益均分シテアルヲ以テ其前途ノ苦境ヲ脱シ  
得タルト雖モ工人ノ其レ比スベカク頻々空費買テ企ル  
モノアルガ弁見次ヲ重視シテ課シテテ未ダ十分ナル均衡  
ヲ採リ得サルアリ

要スルニ赤都ノ如キ莫リ親トハ彼等ノ現行法制トモ  
義トノ間ニモ虚中開キト示貨ト高點カテ往ラニ國家  
資本主義ヲ強フルノ總アリテ各侯共ニ期待ニ反スルモノ  
多シ 莫斯科ニ於テ毎日ノ如ク在野ノ戦争及対立  
張対外宣伝ノタカニ余ル群衆ノ示威運動  
行ハレ一警ヲタルカ一歩莫斯科ノ場末ニ出ツル迄  
氣急ナリ天地ノ主トシテ不徹底極マリ  
莫斯科ニ於ケル中国人ハ留學生六百高人四千  
余アリテ皆相多ノ歡迎ヲ受ケテアリテ高市朝鮮

S 120016 0756

060

學子金ニ平余名アリテ東方大學生ニ爲學子セル由ナリ  
更ラニ日本ニ於ケル老シ我者タル所ニハ潜玉同郷  
アリ溢離中ナリト聞ヤタ是面接ノ期ヲ有セザリキ

四、共産主義我ニシテハハ其ノ國民革命ニ不利ニシテ又國  
情ト相害セズ三民主義ニ依リテ國民革命ノ完成ヲ  
期スルノ外ナシ彼國ニ於テサハ各侯共ニ相俾ハカルカ  
ノ如クセガ旅行ハ數百年後ニ於テモ望マサルベク  
而モ我國ノ如ク工業未だ不發達ノ國ニ於テ而モ物貨  
所持ノ個性強キ國民性ニアリテハ到底行ハズ  
言ハ義ナリト信セラル目下我ガ武漢派ハ共産系ノ驅逐  
ニ努メ其首魁タル譚平山蔡元培白崇禧  
等ヲ一掃シ以反共産ヲ經行シテハ事實ニシテ

S 120016 0757

其の意は、国民党加入、国民党革命ノ破壊ト謀ルニ  
従テ共產黨ナリ一蹴ニ今日ノ寧ろ漢台同ハ名実共ニ成  
立スヘク北伐ヲ完成シ滿天下青天白日旗ノ翻ルル目  
目捷ノ固ニ在リ

五、尙未蔣介石ノ下野及再記ノ問題ハ相商論議ノ矣  
アリ今日近国民ノ革命ニ対スル切タルヤ大ナリト雖モ革命  
軍内ノ新軍閥トシテ独裁行動ニ出ルハ不都合ト謂フ  
可ク民衆革命ナルモハ彼レ個人ノ進退ニ依リテ決セラ  
ル可キ性質ノモノニアラズ所謂民衆ノ力ニ依リテ  
完成スルモノバ彼レガ本心ニ立帰リト突ニ党ノ爲メ果  
々國民革命ノ爲メ犠牲トナルノ覚悟有テ取サル  
ニ非サバ彼レガ再記加入ハ不可ナルベシ云々

五

S 120016 0758

061

15

外務省  
亞細亞局

秘

昭和貳年九月拾九日發  
第一課甲

西電報

九月十六日午後

五、五發  
八、五發

雷文

雷文

雷文

062

參謀次長定

北京 王肥原木佐

支那五四七號 (秘情報)

在莫斯科卸代理大使 十二日發外交部宛東京電要旨。

西電支ノ形勢ハ既ニ緩和ニ趨ク國例ニハ何等ノ緩急

ヲ認メス 支那三ノニターノ人量ハ支那ニ續々歸國シテ

アルガ皆共產制ヲ支那ニ試験セルニトノ錯誤ヲ慮シ

テリ且何支支那ノ南北ハ皆革命政在ナリト認メ

唐等ニ對シテ又憎惡ノ念ヲ懷ケルヲ以テ彼等亦支那

ニ於ケル立脚ノ餘地ナクテ自取スルニ足ル云々ト

S

120016

0759

6.12.00 50

REEL No. A-0333

0055

アジア歴史資料センター





内務省( )  
通知( )  
陸軍省( )  
海軍省( )

電信寫

昭和2 一三三三三 暗 漢中 本省

九月廿三日 廣着

田中外務大臣宛書

在漢口高尾總領事宛

第五三六號  
十九日  
「ガロン」ハ十九日再ヒ露國領事ヲ介シ長崎浦潮經由テ歸國シ

度キニ付旅券査證アリ度シト本官ヘ申越布<sup>レ</sup>タルカ右歸國ノ事情  
等探査旁二十日田尻ヲシテ會見セシメタル際其談話中參考ト爲ル  
可キ點ニ<sup>付</sup>同<sup>レ</sup>

自分今次ノ歸國ハ<sup>for good</sup>ニ支那ヲ去ル次第ニ付途中舊知ノ  
連中ニ挨拶ノ爲南京ニ立寄度キ望アル外(特別ノ用向ニ非サル旨  
ヲ繰返<sup>シ</sup>)一路莫斯科ニ歸ル考ニシテ支那ノ他方面ニ留リ何等

活動スルカ如キ事斷シテ無シ「ボロジン」ノ行動ニ關シテモ種々  
臆測アル模様ナルモ之<sup>モ</sup>同様ニシテ馮玉祥ノ爲抑留セラレサリシ  
ハ勿論<sup>モ</sup>彼ヲ援助スル等ノ事決シテ無ク同人ハ八月二十八日甘肅  
省北部ナル寧夏ニ着セシ旨自分宛内密報道アリ<sup>タルカ</sup>以テ現在ハ既  
ニ「ウルガ」邊ニ在ルヘシト考フ是等ノ點自分ノ名譽ニ賭ケテ嘘  
ハ申サス

又 武漢ニハ元顧問タリシ露國人今猶數名殘留スルモ近ク本國ニ引揚  
ル筈ニシテ又發表ヲ彈ル次第ナルモ目下馮ノ許ニ在ル數名ノ顧問  
亦近ク引揚ニ決定シ居レリ

(ハ) 自分歸國ノ理由ハ健康上ノ考慮<sup>及</sup>七月初旬以降ニ於ケル一般  
形勢ノ變化即國共兩黨關係ノ急激ナル發展ニ基クモノニシテ七月

田中

S 120016 0761

S 120016 0760

063

↑  
人ロハ  
(ハ)

下旬既ニ歸國方決定シ居レリ從テ唐生智トノ間ニ特ニ個人的反目

アル次第ニ非ス

(ハ) 國民黨ハ其眞面目ヲ失ヒ今ヤ軍閥ノ手先トナレルニ付多キヲ期  
待シ得サルモ目下其極ニ達セシ感アル軍閥ノ跋扈ハ更ニ民衆ノ覺  
醒經濟的要求ヲ促シ來リ新ナル革命黨ノ出現ヲ見ルニ至ルヘシ但  
其過程ハ極メテ遅々タルヘク且今迄ノ經驗及支那ノ事情ヨリ察シ  
共產黨カ其任ニ當ルヘシトハ斷シテ考ラレス云々

尙「ガ」及同夫人並ニ副官 *Chelavine Alessis* ニ對シテハ本官ヨ  
リ長崎通過浦潮行査證ヲ與ヘ置ケリ一行ハ本月二十三日當地發  
陽丸ニテ上海ニ向ヒ二十八日上海丸ニ便乗ノ豫定ナリト云フ爲念  
在支公使。上海、濟南、廣東、奉天、南京ニ海電セリ

8070 21017

S 120016 0762

064

0057

REEL No. A-0333

アジア歴史資料センター



在漢口露國領事館  
領事館探査  
ニ関スル件

電信寫

昭和2 一二九一七 暗  
田中外務大臣  
第五四四號ノ一

漢口 本省 九月廿六日前着

高尾總領事



九月二十四日當地露國總領事館副領事田尻ヲ訪問シ（總領事ハ上海へ赴キ不在）重要ナル政治問題ナリトテ語ル處ニ依レハ同總領事館探査者ノ探査ニ依ルニ當地支那軍憲ニ於テハ近ク同館備内ニ闖入シ搜查ヲ行フ計畫アリ露國ニ對シ徒ニ事ヲ構ヘムトスル某國領事ハ支那側ニ對シ既ニ之ヲ默認スルノ意圖ヲ示シ又他國ノ領事ニモ右ノ趣ヲ通告シ領事館トシテモ（日本ヲモ含ム）右ニ同意テ與ヘラルヘシトノコトナル處重要ナル露國人ハ既ニ當地ヲ去リ共

産黨ノ活動モ屏息セシ今日斯ル暴舉ノ必要アリトハ考ヘラレス然シ充分注意スヘキ情報ナルニ付果シテ事實ナリヤ内密伺ヒタク又日本領事ニ於テ斯ル計畫ニ同意セラレタリトセハ右ハ日露ノ親交ニ顧ミ甚タ遺憾トスル處ナリ留守中ノ自分トシテハ日頃ノ御厚情ニ訴ヘ斯ル事件突發セサル様盡力アラムコトナ切ニ希望スト申出テタルニ依リ田尻ハ夫レハ全ク初耳ニテ斯ルコトハ支那側又ハ外國側ヨリ公式ニモ非公式ニモ何等ノ通知又ハ協議ヲ受ケタルコト斷シテナシ從テ當方ノ關スル限り全然虛報ナルヘシト考フルモ昨今ノ場合支那側ニ於テ或ハ斯ル企アルヤモ知レス充分警戒セララル方然ルヘキモ貴方ニ於テ何等疾シキコトナクハ強テ怖ルルニモモラサルヘク萬事ハ總領事ニ申傳ヘ置クヘシト答ヘタルニ（貴）

S 120016 0764

S 120016 0763

065





昭和2 一二九一六 暗

漢口 本省

九月廿六日前着

亞

田中外務大臣

高尾總領事

第五四四號ノ二

副領事ハ深ク感謝ノ意ヲ表シ日本カ本計畫ニ無關係ナルハ甚タ満足ナリト述ヘ今後萬一斯ル情報日本側ニテ入手ノ節ハ内々通告ヲ請フ旨ヲ繰返シ引取レル由ナリ

本件事實ノ有無ハ本官ニ於テ未タ承知セサルモ昨今ノ場合必スシテモ絶無ナリトハ保シ難シサリトテ支那側又ハ領事團ニ於テ何等提議スルコトアリトスルモ事ハ露支兩國ノ問題ニシテ我方トシテ諾否何レトモ其意思ヲ表明スヘキ場合ニ非サルヘク全然無關係地位

電信寫

ニ立チ然ルヘキ儀ト存セラル唯本官等トシテモ儘ニ共產黨分子活動當時裏面ニ於テ相當連絡アリタリト疑ハルル露國總領事館ノ存在ハ素ヨリ好マシキ事ニアラス又露國總領事自身ノ立場トシテモ支那側ヨリハ勿論領事團ヨリモ公私共ニ何等ノ交渉ヲ有セサル事ナレハ今日ノ機會ニ於テ北京ノ實例等ニモ顧ミ不面目ナル事態ヲ引起ササル前自發的ニ一先ツ當地ヲ引揚クル方賢明ノ策ナルヤニ思料ス右ハ東京駐在露國大使等ニ於テモ一應考慮ノ價值アルヘシト存セラル御參考迄ニ内密申添フ追テ總領事館ハ舊露租界タル現在ノ特別區ニアリ

北京へ轉電セリ

S 120016 / 0766

S 120016 0765

066

電信寫



昭和2 一二九九三 暗

上海 本省

九月廿八日後着

矢田總領事

第一二二〇號

貴電第三九七號ニ關シ

「ガロン」ノ所在不明ニ付今朝「ソビエツト」總領事ニ面會シ御  
來示ノ次第傳達方依頼セル處同人ニハ未タ會ハサルカ浦瀾行ニハ  
自分ノ査證ヲ必要トスル關係上出發前ニ來函ス可キニ付其際傳達  
ス可シト答ヘタリ

矢田總領事



S 120016 0767

067

REEL No. A-0333

0060

アジア歴史資料センター

18

亞細亞局長

秋

陸同文

電報

川東軍一多謀長

昭和二年十月三日  
十月一日午後五時三十分

昭和貳年拾月參日

露文

亞細亞局長  
參謀長  
陸電第ニ六八號 (哈市電)

哈市蘇聯邦領事館ヨリ滿鉄カ得タル情報ニ依リハ蘇  
(露)支人ヲ混入スル約一千ノ馬賊ハ數隊トナリ最近沿海州  
方面ヨリ吉林省ニ侵入セリ！  
右ハ現下日奉關係ノ不知ク機會トシテ北滿擾乱ノ目的ヲ以テ蘇

官憲カ操縦スルモノナリト

ボクヲモ機関ニモ依頼シ真偽取調中

北京 天津

068

2

0768

S 120016

REEL No. A-0333

005

アジア歴史資料センター

19

電信寫

陸海軍  
陸海軍  
陸海軍

秋

昭和二十一年十月三日  
暗上海  
本省  
田中外務大臣宛電報  
第十一千七百七號

十月三日後着  
在上海 矢田總領事  
亞十

往電第十一千七百七號ニ關シ  
「ガロン」一行ハ御來示ノ條件諒解ノ上四日發長崎丸ニテ長崎ニ  
向フヤトトオレル旨「ソツイエツト」總領事ヨリ通知アリタリ  
北京、漢口、廣東、濟南、奉天へ轉電セリ

愛の  
支

S 120016 0769

069

REEL No. A-0333

0062

アジア歴史資料センター

秘

寫

十月三日後着在上海矢田總領事發田中外務大臣宛電報寫  
前電ニ關シ「ガロン」一行ハ御來示ノ條件諒解ノ上本月四日出帆ノ  
長崎丸ニテ長崎ニ向フ筈ナル旨「ソヴァイエット」總領事ヨリ通知シ  
來レリ

(赤  
梓  
紙)

外  
務  
省

S 120016 0770

070

秘

寫

十月三日後着在上海矢田總領事發田中外務大臣宛電報寫  
前電ニ關シ「ガロン」一行ハ御來示ノ條件諒解ノ上本月四日出帆ノ  
長崎丸ニテ長崎ニ向フ筈ナル旨「ソヴァイエット」總領事ヨリ通知シ  
來レリ

(赤  
梓  
紙)

外  
務  
省

S 120016 0771

071





十月四日後着在上海矢田總領事發田中外務大臣宛電報寫  
 四日發長崎丸ニテ渡日ノ筈ナリシガロソ一行ハ六日上海丸ニテ出發  
 ノコトニ變更ス

赤  
 棹  
 紙

外  
 務  
 省

S 120016 0772

072

REEL No. A-0333

0064

アジア歴史資料センター

20

電信寫

昭和2 一三二〇三 暗

長沙 本省

十月四日前着

亞

田中外務大臣

糟谷領事

第四七號

唐生智ハ軍隊ノ檢閲ヲ表面ノ理由トシテ漢口ヨリ二十六日歸長シタルカ時局ニ對スル唐ノ態度ニ關シ當地要人間ニ傳ヘラルル處並ニ唐カ一日本官ニ語りタル處ヲ綜合スルニ南京派ハ過激黨軍南下ノ際類ニ唐ノ救援ヲ求メ南京出動方ヲ促シ乍ラ一旦危議去ルヤ思テ之カ阻止ヲ計リタルハ不誠意モ甚シ今次南京ニ於テ第四次中央執行委員會ヲ開カスシテ特別委員會ヲ開催シタルハ違法ニシテ能テ之ニ依リ成立シタル政府ハ承認シ難キモ現在ノ時局ニ鑑ミ事實

上ノ政府トシテ暫ク反對セス中央政府南京移轉ニ件ヒ設立シタル武漢政治分會ハ最モ合法ノ機關ナルヲ以テ湖南ノ政治軍事及黨務ハ同會ニ依リテ指導セラル可シ南京派トノ關係右ノ如キヲ以テ唐ハ密ニ奉天派ト接近シ馮玉祥トハ當分從來ノ關係ヲ保チ今後ノ形勢ニ依リ處置ス可シ幾ニ湖南ニ於テ共產黨ヲ利用シタルハ自己不明ノ致ス處ニシテ罪ヲ同志ニ謝シ益々共產分子ノ撲滅ニ努力ス可ク露國領事カ在留民無キ當地ニ駐在スルハ共產黨ノ機關トシテ活動スルモノナルハ疑無キニ依リ同領事ノ退去ヲ求ムル意向ナリ要之唐ハ南京派トノ乘機ニ四圍ノ事情ニ顧ミ先ツ此際極力兩湖始メ自家勢力圏内ノ結束ヲ固メ時局ノ推移ニ依リテハ或ハ南京派ト公然分離スルヤモ計ラレス今回ノ歸長モ其趣旨ヲ部下ニ徹底セシ

露文

073

S 120016

0774

S 120016

0773

0065

REEL No. A-0333

メントスルニ在リ唐ニシテ現在ノ勞力ヲ維持スル限リ當方面現下  
ノ小康状態ヲ持續シ得可キカ當地ニ於テハ唐ノ人格ト豹變常無キ  
態度ニ對シ非難スル者多シ尙唐ハ數日中ニ漢口ニ引返ス筈  
北京へ轉電シ上海、漢口、南京、廣東、九江へ暗送セリ

S 120016 0775

074

REEL No. A-0333

0055

アジア歴史資料センター

電信寫



昭和2 一三二四九 暗

本 省 十月五日 前着 亞

田中外務大臣

緒方領事

第三〇號

「ボロジン」三日當地通過西行セリ

在露大使へ轉電セリ

Handwritten signature or initials in cursive script.



075



120016

0776

REEL No. A-0333

0057

アジア歴史資料センター



RENGO SERVICES

信 通 合 聯

(行發社合聯開新本日)



社 本  
五 一 内 野 東  
香 丁 幸 町 京  
地 日 町 區 市

外信 第四號 昭和二年十月七日 A

◎ポロデン氏モスコイ入り

モスコイ六日被聯合 先に漢口を引揚げた漢口國民政府顧問たりし  
ポロデン氏は本日無事當地に到着した。

一野

前 八。三五 (三)

077

REEL No. A-0333

0069

アジア歴史資料センター

21

亞細亞局

朝保秘第二二八八號

昭和二年十月十一日

朝鮮總督府警務局長

昭和貳年拾月拾五日接受

第一號甲

西野文

秘

歐米局

馮玉祥  
關  
別紙寫、通り受報候條御参考迄及通報  
候也

本書發送先

内閣拓殖局長、外務省亞細亞局長、  
陸軍省警務局長、關東廳警務局長、  
在支公使、奉天吉林兩省總領事、長春鐵嶺安東領事、  
朝鮮軍司令部官、各道知事、各派遣員

61d.20771  
61d.2051

S 120016 0777

078

寫

馮玉祥トソウエト聯邦トノ提攜等ニ関スル件  
莫斯科ヨリ哈爾濱ソウエト側ニ至レル電報ニヨレハ  
馮玉祥ハ莫斯科政府ニ提議シテ曰ク余ハ公然表面共  
産主義ヲ標榜セスト但實際ニ於テ極左派タルヘケレ  
ハ從來ノ通莫斯科政府ト提携ヲ希望シ左ノ條件ヲ提  
議ス

1. ソウエト政府ハ四名ノ軍事監督委員ヲ派遣駐在セ  
シムヘシ

2. 必要ナル軍事指導者ト武器ヲソウエト政府ヨリ供  
給スルコト

3. 十二万人ニ對スル糧食(但今冬ヨリ来年二月迄)  
ノ支給

4. ソウエト側ニ對シテハ軍事行動ニ限り其ノ監督指

導ヲ受クルモ軍事上ニ於ケル行政其ノ他ニ干渉セ  
サルコト

又馮軍カ何人ト戦フモ總テ右傾者ト戦フニ於テハソ  
ウエト側ハ制肘セサルコト

右提議ニ對スル保證ノ為入質トシテ六名(馮ノ娘ニ  
十一年リヤン外五名)ヲ莫斯科ニ送ルヘシ

右ニ對シ莫斯科政府ハ

ウンシリヒト(ソウエト軍事人民委員會副議長)  
ヨ議長トシグーセフムラロフ、ホタミン(陳友仁ノ  
秘書)及陳友仁

等ニ依リ會議ノ決果回答ヲ獲スル筈ナルカ主トシテ物  
資ノ供給ニ對スル保証問題ニ付議論アリ決定ヲ見スト  
然ルニ一方今四箇錫山ノ對奉宣戰ハ最近ソウエト側ヨ

S 120016

0779

S 120016

0778

079



リ馮軍ニ對シ庫倫經由獲送ノ武器其ノ他軍用品價格百  
二十萬金留ヲ山西境域通過ノ際山西軍ニ於テ掠奪シ以  
テ軍器<sup>宛</sup>實ヲ得タルヨリ奉軍ニ對シ積極行動ニ出ツル  
ニ至レルモノナリトノ説アルモ右ハ表面ノ虚飾ニシテ  
内容ハ各三者ノ聯結アルモノナルヘシト觀測セララル

120016 0780

080

REEL No. A-0333

0072

アジア歴史資料センター

亞細亞局

諜報機密第八八三號

昭和二年十月十一日

在上海

總領事 矢田七太郎

外務大臣男爵 田中義一 殿

上海ニ於ケル馮玉祥夫人並ニ馮玉祥

關係者ノ言動ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ本日諜者ノ齎ラセル情報左記ノ通り何等御參考ニ報告ス

記

在上海日本總領事館

S 120016 0781

昭和元年拾月廿五日接受

081

612.6051

- 一、馮ニ莫斯科ニ滯在中ナリシ馮玉祥ノ夫人ハ今回息子(十六年)ヲ滯同歸國シ目下當地佛租界ニ來住セリ全夫人ハ相當ノ教育ヲ有スル者ナルガ露國ノ現狀應ニ對シ完全ナル満足ヲ表シ居ラズ而シテ全夫人ハ有力ナル排日主義抱持者ナルガ現在莫斯科ニ於ケル勢顯尙級官吏ハ全部排日感情ヲ有シ居レリト述ベタリ
- 二、嘗テ馮玉祥ノ代表トシテ當地ニ派遣セラレ居リタル李鳴鐘ハ最近馮玉祥トノ關係ヲ斷チ當地佛租界ニ住宅ヲ購ヘ居レルガ同人ハ馮ノ親露ヲ非難シテ「馮ハ中國ニ於ケル自己ノ勢力ヲ鞏固ナラシムル爲メ露國ノ勢力ヲ再ビ中國ニ招來スルヤモ圖ラレズ」ト語リタリ
- 三、馮玉祥ノ目的ハ北京ヲ占領シ北京政府ガ中國ニ於ケル眞ノ國民政府ナルコトヲ宣言セムトスルニ在リト云フ
- 尙ホ馮玉祥ノ代表數名ハ何レモ現在ノ南京政府ニ反對ノ意見ヲ有シ且ツ該政府ハ愚物ト無能者ノ集團ナリト愚弄シ居レリ
- 四、目下上海ニハ親馮宣傳盛ニ行ハレ馮ノ南京代表某ハ上海ニ於ケ

在上海日本總領事館

S 120016 0782

082

ル有力ナル人物ヲ買収利用センガ爲メニ最近特ニ三名ノ代理者ヲ當  
地ニ派遣セリ  
以上  
本信寫送付先 在支公使

在上海日本總領事館

S 120016 0783

083

REEL No. A-0333

0074

アジア歴史資料センター

93

亞細亞局

第一號

昭和貳年拾月廿五日接受已

號用紙

手紙

公信第20三號

昭和二年十月十一日

在長沙

領事 榎谷 廉二



外務大臣男爵 田中 義一 殿

加藤 好吉

又那側ヨリ長沙駐在露國領事ニ離湘方要求ノ件

本件ニ關シテハ本月五日附公信第一九九號ヲ以テ報告ノ處露國領事ハ  
本件ニ付キ漢口同國總領事ト打合セノ為メ急遽本月九日當地出發漢口  
ニ赴キタリ就テハ右ノ結果同領事ハ何分ノ措置ニ出ヘキカ右公信第一  
九九號ニ長沙駐在露國領事「ベン」ト記シタル處右ハ「ソロキン」ハ  
(Sokolov)ノ誤ニ付訂正相成度「ベン」ハ養子ノ為メ本年五月上  
海ニ赴キタル儘歸任セス後任トシテ六月「ソロキン」來長現在ニ至リ

在長沙領事館

S 120015 0784

(已號用紙)

085

タルモノナリ  
右の念申願ス

本信寫込附先

在又公使

在漢口

上海

廣東各總領事

S 120016 0785

在長沙領事館

並細亞局



關陸高收第二六六九四號ノ二  
昭和二年十月十九日

第一課

昭和二年十月廿四日接受

關東應務局



086

歐米局



張國樞執ト勞農側ノ態度

9570.12711  
612.00511

今回突如聞錫山カ山西省モシロー主義ヲ破以北京奪取ヲ目的トシテ舉兵  
シ各地ニ於テ守備堅實カラカ奉天軍ヲ擊破シ破竹ノ勢ヲ以テ進軍スル  
ヤ長春地方ニ於ケル勞農側ニ於テハ共產主義ノ勝利ナリトシ快心ヲ笑ヲ  
洩シ張作霖ヲ背景トシ露國ノ復興ヲ計畫シ居レル白軍殘黨ニ於テハ妙カ  
ラス失望シ居ルシガ數百ナラステ奉天軍決勝ノ報續々報導セララルニ

S 120016 0786

及ヒ勞農側ニ於テハ是ヲ以テ日本ノ援張ニ依ル結果ナリト猜疑ノ眼ヲ以

テ迎フルニ至リ山本滿鐵社長カ戰雲低迷スル北京ニ危險ヲ覺カシテ張ヲ

訪問シタルモ北ノ意ニ外ナラスト見蓋タシキニ至リテハ先般當地方巡遊

シタル貴族院議員一行中ノ根津嘉一郎カ金百圓ヲ在長春露國選民ニ寄

贈シタルヲ直ニ日本ノ白紙援助ニ附ヒ付ケ宣傳シ日本有力者ノ行動ニ細

心ノ注意ヲ拂ヒツツアリ而シテ長春「ゲベウ」長「オストロフスキー」

(長春連絡驛々長)ハ右貴族院議員一行ノ旅行ヲ日本資本家ノ援張ノ實

際運動オリト一行ノ旅行目的ニ關シ密カニ調査シ居レル漢譯アリ

S 120016 0787

087

25

電信寫

秘

昭和2 一三七六三

暗 莫斯科

本省 十月十九日前着

田中外務大臣

田中大使

第四九〇號 (極秘)

「ベナドフスキー」ハ在佛代理大使トシテ急遽赴任ノ筈ナルカ同  
 人カ十八日本使ニ内話セル處ニ依レハ「ラコフスキー」ノ後任ト  
 シテハ種々ノ關係上「ドブガレフスキー」ヨリ外ニ適當ノ者無ク  
 目下佛國政府ニ「アグレマン」ヲ求メ居ルモ先方ノ諾否尙不明ナ  
 リ而シテ日本ヘハ「ラコフスキー」ヲ攬スル向アルモ同人ハ既ニ  
 老齡ニシテ健康モ宜シカラス多分實現セス他ニ物色スルコトナ  
 ルヘシ云々就テハ「ラ」ノ任命ニ付本使ノ内意ヲ求メ來ルヤモ計  
 リ難キニ付帝國政府ノ御意嚮豫メ御電示アリタシ

霞文

S 120016 0788

088

REEL No. A-0333



亞細亞局

杖

第一課甲

昭和貳年拾月拾日 接收

昭和二年十月十八日

十月十七日後 収

電報

支那公使館附武官

參謀次長宛

支第六二四號

坂情報

莫斯科科羅代理大使十二日附外交部宛來信要旨

ソウエト機関紙ハ唐生智ヲ賞揚シ南京政府及閩錫

山ニ反対シ且漢口分會ヲ革命正統ノモトナシ又唐生智

ハ軍閥出身有キルモ露國ノ口ロキーニ擬スヘク云々

命軍隊ノ全權ヲ握ルニ足ル人物ナリ云々

思フニ武漢派ト赤黨トハ商榷得テ有スルコトヲ言外ニ物語

レルモノカ特ニ注意ヲ要ス云々

612.0550

S 120016 0789

089

REEL No. A-0333

0078

アジア歴史資料センター

26

秋

亞細亞局長 電報

參謀次長宛

岡電第二七七號

哈市電

昭和二年十月二十日

十月十九日午後五時一六分

岡東軍參謀長

霞文

田代

090

一 青哈市ニ於ケル蘇聯邦側ノ情況ヲ觀察スルニ蘇聯邦ニ於ケル内訌ハ今々愈々深刻化シ幹部派ハトロキーラ始メ及対派有力者ノ排斥ニ必死ノ努力ヲナシ最近及対派ニシテ黨ヨリ除名サレル者數百名ニ及ヒ且及対派ノ青哈市方面ニ向テスル通信スヲ急檢シテ爾情況ニシテ之ニ対シ及対派モ亦盛ニ闇中躍ヲ試ミ近ク聞カルヘキ共產黨大會ニ於テ幹部派ノ分裂ヲ期シアルモノ、如シニ狀況此ノ如キヲ以テ対支政策ノ如キモ目下ノ所閉却サ

S 120016 0790

レ僅ニ第三「インター」ニ關スルモノ、活動ヲ繼續シツニアル情況ニ在リ而シテ當地巨頭ヲラシエウイツチ及「エムレヤ」ノ如キモ右情況ト昨今奉天派優勢トハ當分活勃、餘地ナキヲ見越シ帰國ヲ準備シツ、アリ、

北京 天傳 奉天 協三

S 120016 0791



27

歐米局第一課

亞細亞局

第一課

昭和貳年十月九日 接受(已號用紙)

公信第二一一號

昭和二年十月二十五日

在長沙

領事 榎谷 廉二



外務大臣男爵 田中 義一 殿

露國領事館封鎖ノ件

當地駐在露國領事「ソロキン」カ支那側ノ離湘要求ニ對シ打合セノ爲  
メ本月八日赴漢セシ次第ハ本月十一日附公信第二〇三號拙信ヲ以テ及  
報告置タル處其後同領事ハ今日ニ至ル迄歸來セス同館ハ同領事秘書安  
得爾遜賢爾(譯音)及支那人通譯文案等數人留守シ居タル折柄省政  
府カ突然衛戍司令部ニ對シ同領事館ノ檢査方ヲ命シ依テ衛戍司令部ヨリ  
ハ二十二日稽査處長及副官ヲシテ武裝兵二十名ヲ帶同セシメ同館ニ至

在長沙領事館

S 120016 0792

リ齋交渉員並同科員立會ノ上右秘書ノ案内ニテ一々檢査ヲ爲シタルカ  
同館金庫ノ鍵ナカリシト右秘書支那官憲ノ目ヲ盜ミテ暗號ヲ燒棄シタ  
ルトニ依リ證據ヲ檢査スルニ由ナカリシカ遂ニ交渉署ノ名ニ於テ同館  
ヲ封鎖シタルヲ以テ右秘書及支那人通譯文案等三名ハ二十三日鐵道ニ  
テ漢口ニ退去セリ  
右御參考迄報告申進ス  
本信寫送附先、在支公使、上海漢口廣東各總領事

(已號用紙)

092

在長沙領事館

S 120016 0793

REEL No. A-0333

露支

社

陸司文

電報

參謀次長宛

昭和二年十月二十日  
十月二十五日 示二、三、四、五  
陸軍參謀長

閣電第二七九號 (哈市電)

歐米

情報部

信スヘキ赤系謀者ノ報告ニ依レハ當地蘇聯邦(ソウエト聯邦)  
 幹部ハ日態度ニ関シ新命令ヲ受ケタリ其要旨ハ極東ニ於  
 ケル蘇聯邦ノ地歩ハ當分日本トノ了解ナクシテハ確保シ得サル  
 ナリ以テ金力ヲ盡シテ日本ノ信用ヲ博シ兩國親善ノ向上ヲ圖ル  
 ヘク之カ爲政治的經濟的諸問題ニ百リ成ルヘク日本ノ親ヲ満  
 別セシムルニアリテ東支鉄道蘇聯邦側理事「ゲツケル」ハ二十一  
 日其機關紙「モルワ」及「ノウウオス」ニ紙主幹ヲ召致シ  
 對日本論調ノ基礎ヲ日蘇親善ノ向上ニ置クヘキヲ命セリト云フ

北京、天津、朝鮮、台灣、上海

S 120016 0794



093

REEL No. A-0333

29

秘

昭和二年十月二十七日

電報

十月廿六日午後六時四十分

關東軍參謀長

陸軍次官宛  
関電ニハ二

満州里方面ニ旅行セシ安藤中佐ノ  
觀察ノ大要

一、東支鐵道西部線ヲシテ及露支國

境方面ノ狀況ハ極メテ平穩ニシテ

露國側ハ表面上ハ勿論裏面的

ニモ其行動極メテ微温的ニテ論

スルニ足ラス

二、ザバイカル方面露軍ノ位置及行

動變化ナシ桑貝子附近外蒙軍ニ

對シ最近「キルキス」騎兵軍ヲ增加セ

リ該地附近及東方一帯ニ分散駐屯

スル外蒙兵力ハ騎兵千三百砲三月ナリ

三、九月ヨリ十月ニ至リ「ザバイカル」ヨリ桑

貝子ヲ經テ南方ニ物資ヲ輸送セシ

ハ事實ナルモ山西軍ニ對スル援助

ニ非スシテ外蒙軍ニ對スル需給品

ト判斷サル物トシテ露國ト山西トノ

關係ハ從來及現在ナシト認ム

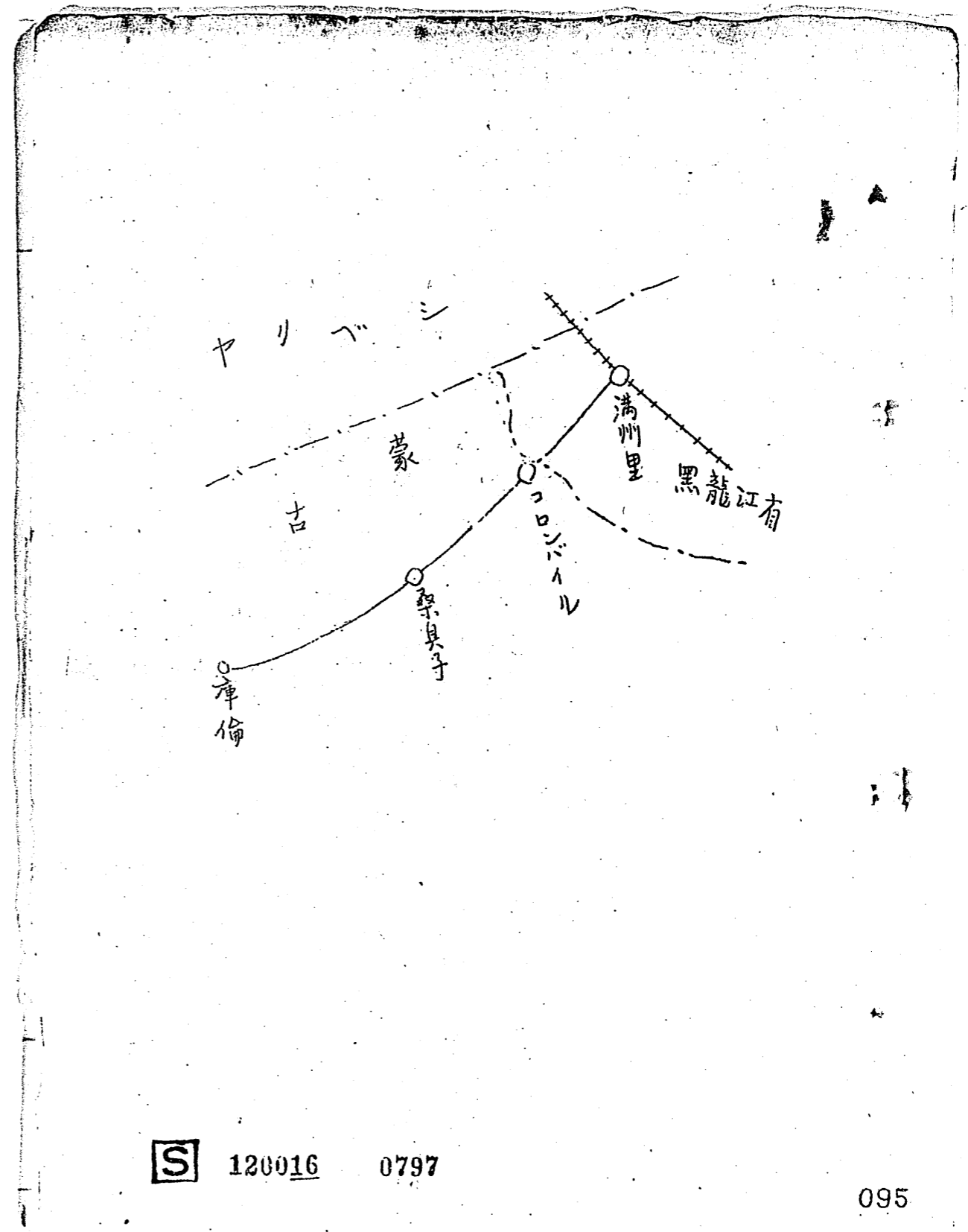
S 120016 0796

S 120016 0795

094

REEL No. A-0333

アジア歴史資料センター



REEL No. A-0333

0083

アジア歴史資料センター

30

秘

電報

上海 重慶 中 伍

昭和二年十月二十七日

秘

第一五號 謀者報

最近共産党中央委員より上海同志より宛テタル秘密命令在ル

一、命令ハ發セラル田同志ハ連ニ来僕ス可シ

二、罷業行動ヲ擴大シ工會統一委員會ヲシテ應接ニ暇ナカラシムヘシ

三、工會ハ自動的ニ組織ヲ改正シ新同志ヲ参加セシムルコトニ努力スヘシ

四、露國ヨリノ為替一萬元ハ罷工ノ用ニ充ツヘシ

五、喧騒ノ際ニ東シ速ニ破壊ノコトニ從事スヘシ

但シ其程度ハ人民ノ恐慌ヲ引キ起ス程度ヲ以テ後トス

六、大暴乱ハ逐次準備スヘシ

期未ク熟セス依テ切ニ妄動ヲ為スコトナカレ

七、南京ノ中央特別委員會ニ反対シ、玄僕ヲ聲援スヘシ

八、南京ハ日ニ内訌顯著ニシテ上海ノ軍隊ハ人民ノ同情ヲ得難ク今後宜敷名流ヲ利用シ知裁階級ヲ以テ市政ヲ破壊シ又ハ南京政府ヲ攻撃スヘシ

但シ中立ノ態度ヲ維持スルヲ以テ度トスヘシ

九、左派ノ勢力ヲ駆逐シタルハ南京ノ失敗ノ根原ナリ宜敷方法ヲ講シ左派ヲ誘引シ吾等ノ世トナスヘシ

但日市党部ヲ援助スヘカラス

S 120016

0799

S 120016

0798

0965

秘

昭和二年

十月二十八日

電報

十月二十七日午後三時。分祭  
五附廿五分著

陸軍次官宛

閣東軍參謀長

關電ニハ四、(哈市電)

ラセウイツケレハ昨二十六日夜革命

十周年記念祭參列ノ爲ト称

シ莫斯科ニ赴ケルモ再ヒ歸哈也

サル可シト見ルモ多シ(關電ニ七七參

照)

手記

S

120016

0800

097

31

電信寫

昭和2 一四二二二 暗

本 省

十月三十日後着

田中外務大臣

田中領事

第三五號

「サンペイズ」ヨリ最近來滿セル露人數名ヨリ聞ク所ニ依レハ同  
 地ノ東方二十露里位ノ河畔ニ十月十九日ヨリ約二百名ノ露兵約三  
 十ノ天幕ニ露營シ多量ノ貨物ヲ護衛シ居ルモノノ如ク露兵入蒙ノ  
 用務ハ演習又ハ貨物護送ノ爲ナリト稱シ居レル由ナルカ多分「  
 ルジャ」ヨリ貨物ヲ護送シ來レルモノナルヘク尙貨物中ニハ銀  
 アリ彼等ハ十一月中旬迄滞留ノ豫定ナリト

露



S 120015 0801

098

### 支那革命の失敗は 露國外交の破綻

ソビエト政府は暴力の府だと  
トロツキー、ジノビエフ両氏演説

【モスクワ二日電】露國外交の破綻は、ソビエト政府の暴力の府だと、トロツキー、ジノビエフ両氏が演説した。ソビエト政府は、露國外交の破綻を、暴力の府だと、トロツキー、ジノビエフ両氏が演説した。ソビエト政府は、露國外交の破綻を、暴力の府だと、トロツキー、ジノビエフ両氏が演説した。

◆忠實でないと思われた  
と云ふ事實を引用し、さらに粗  
暴非難の態度は今や露國内全  
般的に醸成して来た。斯の如き  
状態は暴力手段をも各野員が採  
る可き一つの個體となさしめ、  
自然に對して、此の種の手段を  
採るに至つて居ると絶叫して居  
居る。さらにジノビエフ氏は、  
その演説において、スターリン  
一派の政策を以て露國の國策  
を政治的に破綻に陥せしむるも  
のであると批難し、支那におけ  
る露國の外交政策に一種障を  
革命の

本報新聞 昭和二年 11月 6日